



中央アジア・キルギスタの「キッズ・センター」に集まる子どもたち



ミッション・宣教の声 主幹
黒田 禎一郎

私たちはこれによって輝く

「この方は、銀を精錬する者、
きよめる者として座に着き、レビの子らをきよめて、
金や銀にするように、彼らを純粋にする。」
マラキ3:3

古くから、「艱難、汝を玉にす」という「ことわざ」があります。人間は多くのつらいことを経験して、はじめてりっぱな人物になれるというたとえです。聖書の中にも銀の精錬をたとえに、試練や苦しみが人格を鍛え上げるという聖句があります。しかし玉を磨くことと、銀を精錬するのは根本的に違います。銀は、鉛やマンガンなどの不純物との合金として銀鉱石から取り出されます。そして、さらに火によって精練され、純粋な銀が取り出されていきます。火によって不純物を取り除くことによって、銀はその価値が明らかにされるのです。

人は単に磨くだけでは、その価値は明らかにされません。人間の中にある罪や汚れた思いという不純物があるかぎり、どんなに磨いても輝くことはありません。主はこれを取り除き、真に価値ある神の子の姿を明らかにしようとしておられます。じつは、主ご自身が私たちを人生の苦難や悩みという炉の中に置いておられるのです。そこで不純物である高慢、貪欲、汚れ、偶像崇拝等の罪を取り除いてくださいます。

そして幸いなことは、主は私たちをそこに放置されるお方で

はありません。みことばは次のように語っています。「この方は、銀を精錬する者、きよめる者として座に着き、レビの子らをきよめて、金や銀にするように、彼らを純粋にする。」(マラキ3:3) 主ご自身が精練工として座に着き、私たちのすぐそばで見守り、罪や汚れを取り除いて下さいます。なんということでしょうか。天地の創造神が、精練工としてすぐそばにいてくださるのです。ですから私たちは一人ではありません。そこには精練工なるお方がおられます。ですから、たとえ大きな苦難や試練が襲って来ようと、私たちは卑しめられることはありません。いいえ、むしろ私たちを純粋なものとし、神の光を輝かせるものとしてくださいます。そのように受け止めるのが「信仰」です。いいえ、信仰がなければ無理でしょう。

人生の精練課程で神の子の実存が、明らかにされていきます。精練工(創造神)はすぐ傍らにおられますから、銀は精練され聖くされ光を放つ存在へと変えられていきます。キリスト者は希望を失いません。輝くような光が待っているのですから、信仰で受け止めましょう。

コロナ禍の海外邦人宣教 25

米国ハワイ邦人宣教①

「宣教 ～大切なこと～」

ホノルル キリスト教会
牧師 関 真士

神の好機

コロナパンデミックが始まって、約3年が経ったことになる。3年前の、あの物々しい雰囲気が遠い昔のような気がする。この3年間で振り返る時、「人の危機は、神の好機」とはよく言ったもので、まさにその通りであった。確かにコロナは、様々な危機を教会にもたらした。会堂礼拝が持てないという礼拝の危機、集まらないゆえの交わりの危機、献金の減少による財政危機、訪問や見舞いにも行けない牧会の危機、コロナ対応に疲弊した牧師のメンタルの危機…等々。

しかし、これらすべての危機は、神の好機となり、教会を目覚めさせ、物事の本質を考える良い機会となった。結果的に教会は活性化された。信徒の方々様々なアイデアから15以上の新しい動きが始まった。ハイキングチーム、サーフィンチーム、メンズフェロシッパ、SNS利用では、キッズサンデースクール、バースデー、エクササイズ、ディボーションブログ、聖書クラスなど。絵画クラス、フラワーマニストリー、生活困難者へのサポートチーム、対面の聖書クラス、バンドミニストリー、キッズ音楽ミニストリー、対面のキッズサンデースクール、休止中だった祈りのチームの再始動など、それ以外にもたくさんの動きが起こった。この中には、役割を終えたものもあれば、継続しているものもある。



ホノルル教会

洗礼者、転入者は、合わせて30名以上となった。コロナに起因する財政危機も乗り越えることができた。礼拝動画配信の登録者数は、コロナ前から約千人増えた。危機の中だからこそ、教会は一致することを強く意識し、愛することを実践する力は増し加えられた。まさに、人の危機は、神の好機であった。ハレルヤ！

大切なこと

このような目に見える形として起こった事は素晴らしいことで、素直に嬉しいことだ。しかし、これらの出来事や数値は、教会の旅路の中で起こったことであって結果ではない。これだけをもって“人の危機は、神の好機”の印とすることはできない。私自身は、ホノルル教会で数値を目標として掲げたことはない。むしろ私が牧会の上で大切にしているのは、人を「神のかたちに造られた人」として見るということだ。

すべての人間が(もちろん未信者も)、「神の作品」として神に造られた者たちだ。もし今手に持っている器が人間国宝の造った茶碗だと判ったら、特別に慎重に丁寧に扱うことだろう。私たちは、その人と関わる時には、人間国宝どころではない天地を造られた神に造られた方と関わっているということを意識したい。

マタイは、自分自身のイエスとの出会いと回心の出来事をたった1節で記している。マタイの福音書9章9節には、イエスは「マタイという人が取税所に座っているのを見て」と記している。取税人とは自分の意志で神の民であることを放棄した者たち、つまり神よりお金を選んだ者たちだ。だからユダヤ人からは「罪人」と呼ばれていた。しかしイエスは、マタイという取税人が取税所にいたとは見ていないのだ。イエスは、マタイという人を見ている。取税人が取税所にいるのは当たり前だ、それが仕事なのだから。しかしイエスは、マタイを神のかたちに造られた人、さらにアブラハムの子孫として見てい

る。そう見ると、マタイが取税所にいるのは当たり前ではない。そこはマタイという人が居るべき所ではない。

私たちは、イエスがマタイという人が取税所にいるのを見たように、その人が置かれている状況や場所を知ること、人間の罪性を直視することは必要なことだ。しかし、まず先に見るべきは、その人が神のかたちに造られた人であるという事実である。たとえ、その人が神のかたちに造られた本来の姿から離れ、罪の中に生き、神から離れていても、その人が神の作品であることには変わりはない。その作品にひびが入り、欠け、汚れていても、それでも神の作品であることには変わりはない。神は、そのひとり子イエスの十字架の血によって、その神の作品を清め、癒し、本来の神の最高傑作品としての姿を回復してくださる。さらに神の栄光のためにその器を使ってくださるのだ。

存在の尊さ

数値は上がった、下がった、常に化する。そこで本当に大切なのは、確かに今ここに存在している名前を持った「人」なのだ。その人の存在の尊さは、コロナ前も中も後も変わることはない。コロナ規制もゆるくなり、会堂礼拝に人が戻り始めて来たころ。ある期間、私は「その人、その人」が礼拝にやって来る姿を見て涙が溢れてくることがあった。キリストが呼び集めている一人一人の存在が愛おしくて仕方がないのだ。

コロナ下の3年間に於いて痛感したことは、コロナであろうとなかろうと、宣教とは、「その人」の存在の尊さに想いを向けることだということであった。この気づきこそが、本当の意味での“神の好機”なのだと思う。(続く)



洗礼は早朝のビーチで

伝道、プレゼントにもおすすめです。

聖書の集い・連続メッセージ

「讃美歌詩・聖歌詩の背景から学ぶ信仰」

第1巻～第9巻 刊行

多くの人たちに親しまれている讃美歌詩・聖歌詩の背景にある作詞者の信仰に焦点をあてる励ましのメッセージ集です。

中綴じB6サイズ ¥500(税別)

ご注文は「ミッション・宣教の声」事務局まで。

その時、
わがたましいは歌う
主幹 黒田 禎一郎

海外伝道シリーズ 旧東ヨーロッパの 教会と信者は今

177

キルギス共和国
黒田 禎一郎

キルギス(通称)は中央アジアに位置し、かつての旧ソビエト連邦構成国の一つで人口約650万人の小国です。人口の約半数はキルギス人が占めますが、他に80以上もの少数民族が混在する国です。国土の約90%は山岳地帯で、そこには金、石炭、ウラン等の鉱脈に加えて石油と天然ガスも出ています。歴史的には古くはシルクロード時代にさかのぼり複雑で、紛争は現在も続いています。国内では民族紛争、経済問題、反乱が続く、国外では隣国タジキスタンと未だに国境線が半分近く明確でないため軍事衝突が起こっています。この国は開発途上国の一つです。人口の約90%はイスラム教徒で、キリストの福音を一度も聞いたことがない人々は多くいます。しかしここにもキリストの教会は建てられています。次はロシア系ドイツ人アレイサンダー&ナタリア・G夫妻からの現地レポートです。



アレイサンダー&ナタリア・G夫妻

福祉支援施設「愛の手」

旧ソ連時代に、多数のロシア系ドイツ人がこの地に移住しました。彼らの多くはイエス・キリストを救い主と信じる聖徒(主にバプテスト派、ブラザレン派)たちで、神は霊のリバイバルが起これキリストの教会が建てられました。そして社会的困窮者や福祉的支援を必要とする

人々へ、イエス・キリストの福音が届けられています。ここ首都ビシュケクでも、貧しく生活に困窮している人々は多数います。欧州の生活スタンダードから見れば、想像もつかないような日々を送っています。貧困社会は子どもたちにも影響を与えています。

街ではストリート・チルドレンが多数います。初めは彼らのために「デイ・センター」を開設して支援していましたが、働きの必要性は大きくなり子どもたちを迎え入れる施設(孤児院)を2か所設けるようになりました。一つは「父の家」、もう一つは「幼年期子どもの家」と呼んでいます。じつに多数の子どもは破壊された家庭環境にあり、今も入居希望者リストには待ち時間が必要です。彼らが施設に入れば空腹を満たす食事だけでなく、霊の食物も受け取ることができます。子どもたちはその両面で飢え渴いています。



施設で食事中的子どもたち

キルギスの子どもたち

キルギスでの出生率は24%(2022年)ですので、多数の子どもがいます。しかし国家の政治・経済状況は、幼児・子ども教育にまで手を伸ばせる状況ではありません。多数の子どもたちは産みの親から捨てられ、路上をさまよっています。子どもたちは教育が施されない社会に置かれ、小さい頃から煙草を手にし酒を飲み始め、中には麻薬に手を出す子どももいます。これらは全て国内犯罪に無関係ではありません。ここに発展途上国の悩みがあります。

私たちは2つの施設では、20人から60人の子どもたちをケアしています。それぞれの施設長は子どもを通して親に連絡を入れる、子どもを定期的に訪問するように努めています。それによって子どもたちが親子関係を保てるようになるためです。確かに少

ずつですが、彼らの問題が少し解消しつつあります。それに加えて感謝したいことは、ドイツの宣教団体「フリーデンス・ボーテ」から経済的支援が届いていることです。支援献金で食料品を購入し彼らを助けています。

キリストの愛を伝えるために

もう一つの問題は、国内の経済事情から多くの親が子どもを置いて、出稼ぎ労働者として国外に出ている現実があります。残されたのは経済力の乏しい老人と子どもたちですが、彼らの親族や友人が子どもを預かる訳でもありません。彼らの生活はさらに困難が増えています。それに未婚の母や、強姦によって母親となるケースもあります。これらの女性たちは家でも受け入れられず、路上をさまよっています。さらに奇妙なことは、中世からある風習です。それは少女を小さい時に

誘拐し、男と強制結婚させるという悪習慣が残っています。少女は自分の意志ではなく、道具のように扱われています。21世紀の世界で、このような現実がまだ存在しています。子どもたちが受けた心の傷は、決して小さくありません。心の傷を癒すために身体的、精神的、霊的支援が必要です。私たちはこのような不幸な状況下にある子どもたちを保護し、キリストにある愛で支援を続けています。そして子どもたちが自立して、生活できるようにも指導しています。忍耐と愛が求められます。何よりも、私たちの最大の願いは、子どもたちが真の神を信じ神の子として成長することです。どうぞ、私たちのキルギスでの働きを祈り覚えてください。

(つづく)



プラスチック・ボトルを集めるストリート・チルドレン

荒野に立つ教会(前編)

出エジプト記のイスラエルの民たちのように、脱北者たちが幾日もかけて回り道をし、目指した大韓民国は彼らにとって約束の地、カナンになるはずでした。苦勞の末、北朝鮮という名のエジプトから脱出し、彼らを受け入れてくれた国で市民権を回復させ、生まれて初めて自由を獲得しました。彼らの多くがようやく幸せを掴めると信じて行き着いた地は、幻想であったと気づきました。大韓民国は脱北者たちにとってカナンではなく、新たな痛みを与える荒野に過ぎませんでした。彼らにとって本当のカナンの地は、イエス・キリストの福音によって再生する祖国であり、やがて帰る天のふるさとであり、どちらもまだ見ぬ遠い地であります。本当のカナンを目指すまで、一人のディアスポラなる男性が、この荒野で教会を建て始めました。今月と来月号は、教会を建てるまでの彼の思い、そして、彼が目指す教会のビジョンについてのストーリーをお届けします。

「絶対神」

私が兄と呼んでいるその人にとって、神という存在は物心がついた時から金日成しかありませんでした。託児所や幼稚園でさえ、子どもたちに与えられる食事やおやつのは、金日成の恵みだと教えられ「敬愛する金日成のお父様、ありがとうございます。」と小さな手を合わせる幼子たちの姿がありました。9才になると、共産主義少年団に入団させられ、その頃から金日成への忠誠宣誓を植え付けられました。毎週金曜日には金日成についての学び、土曜日は金日成の写真の前で自らを戒め、また、いかに金日成に対する忠誠心が欠けていたかと友だちを批判し、互いを批判し合う批判大会が行われ、金日成への忠誠を新たに決意させられるという週末でした。

14才になると、全員が金日成青年同盟に強制加入させられ、依然と生活統制と忠誠を誓うことを余儀なくされました。17才になると無条件に軍隊に入隊させられ、この青春時代の10年間は、米国、日本、大韓民国を主敵と見なした殺人的な軍事訓練に明け暮れ、更なる金日成崇拜思想の洗脳を浴び続けました。金日成は絶対神であり、金政権と党のために人

生を捧げ尽くすことが、その頃の兄の生きる世界でした。けれども、真の神なる方はこの虚偽の世界から兄を目覚めさせ、彼を立ち上げらせ、兄の上に御心を起こそうとされていました。

真逆のシナリオ

自分の信じてきた世界が、虚像に過ぎないと兄が気付いたのは、1990年代に約300万人が生命を落とした大量餓死でした。金政権はこの大量餓死は、西側諸国の圧力と攻撃によるものであると国民たちに吹聴しました。これは明らかに、独裁政権の歪みから来る結果だと誰もが分かりそうなことであっても、国民たちは国家や党の言うことを鵜呑みにし、信じて疑いませんでした。「忠誠の限りを尽くした我々の未来は、やがては完成した共産主義国家となって永遠に生きることができるよう、通り雨のようなこの苦しきは、一時的なものに過ぎない」と、北朝鮮国民は心に吹き込まれました。

彼らは空腹の苦しみを洩らすことも許されず、痛いことは痛いと言えない自由さえ奪われ続け、何も言わずにひたすら耐えることしか許されませんでした。ところが、洗脳によって思い描いていたシナリオとは真逆に、事態は悪化するばかりで、兄も自分の愛する身近な人たちが飢餓によって次々と生命を落とす地獄を目の当たりにしました。それと同時に、外部からの情報を得るようになった兄は、国家によって歪曲されていた事実を知り、ようやく洗脳から目が覚めました。

イエス・キリストと歩むなら そこはカナンの地

兄のこの覚醒が彼を祖国から脱出させ、中国大陸へと導きました。中国では犬さえも食べないような食べ物でも、思う存分食べました。しかしそれは束の間の天国のようでした。数日間夢中になり食べて、飲んで、元氣を取り戻したら、忘れていた現実を思い起こし我に返りました。無残にも命を落とした者たちや祖国に残してきた家族のことを思うと、心が痛み悲しみに暮れました。また、強制送還の危機にも直面し、恐れのおもひも沸き上がり、皮肉にも祖国

北朝鮮で押さえつけられていた痛みや悲しみ、恐れなどを感じる様々な感情が溢れ出しました。そのような中で、神との人格的な出会いが多くの脱北者たちに起こりました。紆余曲折を経て、ようやく大韓民国に到着しますが、喜びや安堵感も束の間、溢れるほどの食べ物をお口にすると、食べることもままならない祖国の家族に対しての罪悪感に苛まれます。祖国の家族に再会したくて、恋しくてたまわなくても、隣国の家族にさえ会うことができない現実を実感します。それに加えて韓国社会で適応することの困難も覚え、むしろ新たな痛みが伴います。

そんな兄や他の脱北者たちを支えるのは、イエス・キリストの存在です。イエス様から少しでも視線を外せば、すぐに痛みがやって来ます。何処にいても伴うこの痛みは、実は神の恵みです。この痛みがあるからこそ、彼らは天のお父様の隠れ場に身を寄せ愛と平安を体感することができます。そして、兄はこの痛みと悲しみを、喜びに変える奇跡を起こす者になろうと考えました。イエス・キリストだけが平安の源なる方であり、イエス様と共に歩む日々こそ自分が何処にいようと、そこはカナンの地となるその思いが大韓民国なるこの荒野に、教会を建てるよう兄を駆り立てました。

平安のうちに私は身を横たえ、
すぐ眠りにつきます。

主よ。あなただけが、
私を安らかに住まわせてくださいます。
(詩編4:8)

(次号につづく)



北朝鮮建国の父祖像

ウクライナ

●米国の支援団体「サマリタンズ・パース」は、毎年クリスマス時期に約2億個の「シュー



子どもの時のエリザベス・グローフ女史(前列右) 現在のエリザベス・グローフ女史

ボックス」を全世界の子どもたちに贈り届けています。中身は生活の必需品はじめ、子どもたちが喜ぶ贈物、そして聖書のみことばカードが入っています。戦争下にあるウクライナの子どもたちも、その贈物を受け取り大喜びでした。昨年のクリスマス時、米国人エリザベス・グローフ女史(28歳)は自らウクライナを訪ね子どもたちに直接手渡しました。彼女は昔ウクライナの孤児院にいた時、同じくクリスマス「シューボックス」を手にしました。彼女は11歳の時、米国人養父母に迎えられ米国へ渡り米国人家庭の養女となりました。しかし彼女はその時の感激を、今も忘れられないと語ります。今回、彼女は感謝の心を持って母国を訪ね、子どもたちを慰問しました。

「サマリタンズ・パース」は1993年、米国のフランクリン・グラハム師によって作られた支援団体(本部ノースカロライナ州シャーロット)で、世界170カ国以上の国々の子どもたちに「シューボックス」を贈り届けています。戦争、病気、貧困、自然災害の中にある学校、幼稚園、教会の子どもたちに、特にクリスマス時期に贈物を届けてきました。大切なすばらしい働きです。お祈りください。

●ウクライナ・バプテスト教会の発表によれば、ウクライナ・ルハンスク州ボブチョヤリヴカのバプテスト教会会堂が破壊されました。昨年2月のロシア軍侵攻によって、この



略奪放火された会堂

会堂は没収されロシア軍兵士が使用するようになりました。その後、教会堂は略奪され放火されました。写真のように、屋根は失くなり壁の一部が残っている状態です。この教会は1990年後半に建てられ、5年で40人の信者が礼拝する群れとなっていました。ウクライナ・バプテスト教会は全土で約2,400箇所、約12万5千人の教会員がいます。ウクライナ・プロテスタント最大の教派となっています。どうぞ、お祈りください。

英国・ウェールズ

1801年以来の英国・ウェールズのクリスチャン数は、2021年の人口調査で、初めて50%以下となったことが明らかにされました。今回の調査でクリスチャンの数は、住民の46.2%であることが判明しました。この数字は10年前に比べ約13%の減少です。英国統計局の発表では、10年前は25.2%が宗教(信仰)と関係ない生活を送っていましたが、今回は37.2%となりました。キリスト教に次ぐ宗教グループはイスラム教(6.5%)でした。次いでヒンズー教(1.7%)、シーク教(0.9%)、仏教とユダヤ教(各0.5%)の順です。どうぞお祈りください。

エリトリア

英国の宣教団体「リリース・インターナショナル」(本部:ロンドン)

ドン)によれば、エリトリアでは150人の信者が礼拝中に逮捕されラチアに連行されました。この教会は首都アスマラの南に位置する地下教会です。約50人の女性と子どもたちは、その後しばらくして釈放されましたが、98人はマイセルヴァ軍事刑務所に収容されました。エリトリア国内ではイスラム教以外に、正教会(オソドックス教会)、カトリック教会、ルーテル派教会だけが公認されています。他の宗派は集まることは違法行為とされます。したがって、突然に公安警察によって逮捕連行されることが現実に起こっています。お祈りをお願いします。

MBB グローバル

昨年11月18日、インターネットを用いて「MBBグローバル」という「祈禱会」が開催されました。MBBとは、「イスラム教を背景に持つキリスト者」という意味で、かつてはイスラム教徒で回心した人々が参加しました。世界40カ国以上から1万人以上の参加者がありました。主催者はブラジルの「コミュニオ・メシアニカ」で、代表理事の一人パウロ・ムアドゥホ氏は、「この祈禱会は大変有意義で大きな成果があった。」と語っています。祈禱会は世界の73チャンネルを用いて、5言語(英語、アラビア語、ファールシー語、トルコ語、ウルドゥー語)に通訳されました。多くの教会や団体は、その後Zoomを用いて独自の祈禱会へ導かれています。



パウロ・ムアドゥホ氏

ブラジルの「アル・ハヤット・ミニストリーズ」はこの「MBBグローバル」のミニストリーのために24時間の連鎖祈禱を行い、約5万2千人のクリスチャンが参加しました。この祈禱会は2015年にドイツのショーンブリックで開催された「迫害下にあるキリスト者のための祈禱会」の枝祈禱会です。この働きは現在、世界80カ国に広がっています。祈りの中心テーマは、イスラム教から回心しキリスト者となった聖徒たちが、迫害に耐えキリスト者として証を立てて生きることができるよう、というものです。大多数の回心者は家族から遮断され、仕事と住居を奪われ社会的制裁を受けています。これほど多数の回心者が心を合わせて祈る祈禱会は、かつてありませんでした。参加者は大変感謝しています。どうぞお祈りください。

カタール

世界中が沸いたワールドカップ(WC)は話題が豊富でしたが、湾岸諸国聖書協会は新約聖書配布運動を行いました。クエートのフライル・エベジアン聖書協会代表は、14言語によるヨハネ福音書1万8,500冊、3,500冊の英語新約聖書、それにインドで使われているマラヤラム語、タミール語、テルー語、ネパール語聖書等も提供したと語っています。これらの言語を話す国々からは、今回のワールドカップ関係事業の建設労働者として多くの人々が従事していました。彼らの労働条件は決して満足できるようなものではなく、猛暑の炎天下での労働に苦言が出て、人権問題も発生していました。カタールで開催されたWC関係工事作業のため、約260万人も出稼ぎ労働者が働いていました。湾岸諸国聖書協会は、アラビア半島の7つのイスラム教国家(バーレン、イエーメン、カタール、クエート、オーマン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦)で、労をとり尊い働きしました。どうぞお祈りください。

アフガニスタン

キリスト教国際支援団体「シェルター・ナウ」(SN)は、首都カブールで長い年月を経て小学校を開校することができました。学校はかつてレストランとして使われていた建物を改造して9部屋作り、その内4部屋は教室となりました。学校は「モンテッソーリ教育」を施すに最適な所であると、ウドー・ストルテ代表は語っています。5人の女性教師は6歳から12歳までの女児86人と、男児64人に授業しています。SNは2002年から教育活動を始め、2009年に他の宣教団体から働きを受け継ぎました。しかし2021年の夏、アフガニスタンはタリバン政権下に置かれて、しばらく活動は閉鎖されていました。その後、タリバン政権の認可を得て子どもたちの学校教育を再開しました。SNは1988年以来、アフガニスタンで支援活動を行なっています。どうぞ、その働きのためお祈りください。



150人の子どもが学ぶ学校

ドイツ

昨年11月から12月にかけて、ドイツ国内のユダヤ教礼拝堂(シナゴグ)やラビ(ユダヤ教教師)宅が襲撃される事件が起きました。11月18日、中部ドイツのエッセン市の歴史あるシナゴグは、何者かによって銃弾が撃ち込まれた跡が発見されました。警察は午前8時30分頃に確認した証人がいると発表し、複数の銃弾が会堂とラビ宅玄関ドアに撃ち込まれたと発表しました。負傷者はいませんでした。警察はかなり高精度の銃器が使われたようであると推測しています。警察は近隣のビデオ録画を調べ、目撃証人を探しています。その翌日、首都ベルリン東地区シェーネベルクのパザウアー通りにあるユダヤ教会堂が、同じく襲撃され警報が発令されました。その際、ラビ宅玄関に取り付けられていた「メズサ」(木製の小木箱に聖句が入っている)が盗難にあいました。どうぞ、お祈りください。

エチオピア

聖書に登場するエチオピアは、人口1億1,200万人でクリスチャン数は統計上59.8%です。しかしエチオピアは福音宣教地でもあります。首都アジスアベバは人口約350万人、英語

は主言語として使われていますが、現地の言葉としてはアムハリシ語があり、他に80言語以上あります。首都でさえ時としては電気、水道がない所があります。しかし若者にとって都会は魅力的で、都会に入ってくる若者は後を絶ちません。手に職がない若者は物乞いしたり、若い女性は売春によって生きています。そのような中、子どもが与えられれば悲惨な生活となります。

これを知ったドイツ人宣教師サムエル&メリー・ボーデ夫妻は、少しでも現地の人たちを支援しようと働き始めました。2歳から6歳の子どもの持つ母親(15歳から30歳)を集めて、5年プログラムで母子教育活動を行い、同時にキリストの福音を宣べ伝えていきたいと願っています。ボーデ宣教師によれば、彼らは福音に心を開いて大変オープンです。では、国民の半数以上が統計的にキリスト教徒であるにも関わらず、なぜ福音を語る必要があるのでしょうか。それは彼らの大多数はエチオピア正教会(オーソドックス)の信徒で、ただ伝統と習慣に従い正教会に籍を置いているに過ぎないからです。彼らは生けるキリストを全く知りませんし、聞かされてもいません。彼らは胸に十字架をつけ、教会堂に入る際は軽く腰をかがめてから入堂しますが、生きておられる神については、大多数のエチオピア人は無知です。そこでボーデ夫妻は彼らに教育を施しスクーリングを開始したいと痛感していますが、現地の物価インフレ率は40%であり、莫大な建築費用(約60万ユーロ)が必要となっています。これは大きな壁です。どうぞ、必要が満たされますようお祈りを願います。



ボーデ宣教師夫妻



母子学校でのレッスン



アジスアベバのスラム街

ミッション・宣教の声 The Voice of Mission

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10 VIP関西センター 5F
TEL06-6226-1334 FAX06-6226-1336
E-mail senkyo@vomj.jp http://vomj.jp/

発行人 黒田禎一郎
年間購読料 ¥2,500(送料込)

郵便振替口座 00940-3-301623
銀行口座 三菱UFJ銀行 堺東支店(店番205)
普通口座 3623132「ミッション・宣教の声」

The Voice of Mission
MUFG Bank, Ltd. Sakaihigashi Branch
Bank account No.3623132 SWIFT CODE : BOTKJPJT
Bank Address : 59-2 Mikunigaoka-Miyukidoori, Sakai-ku,
Sakai-shi, Osaka-fu 590-0028 JAPAN TEL:81-72-221-3041



編集後記



- 今季は日本列島各地で雪による被害が出る極寒となりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。いつも祈りお支えくださりお礼を申し上げます。今月も「宣教の声」をお届けできる恵みに感謝します。
- 海外邦人宣教レポートは今号からハワイの関真二牧師が執筆くださいました。ご愛労に感謝します。どうぞ海外邦人宣教を覚えてお祈りください。
- 「ウイズ・コロナ」で混迷が続いています。多数の人々が不安を抱えている中、私たちはキリストの福音をお伝えしましょう。感謝。